

## 固定した製品製造にとらわれず、 さまざまな分野の製造へ挑戦

電子部品機器(アンテナ・半導体・液晶露光装置)の製造・組立を中心としつつも、固定した製品製造にとらわれずさまざまな分野の製品製造へ事業を広げている。また、産学官連携を重要な活動と位置づけ、医療機器に搭載される「気体流量計」や歯科教材の開発・量産化にも取り組む。コロナ禍においては、秋田県が取り組む『ものづくりTeam Akita』に参加・協力。フェイスシールド等の医療物資の製造にも取り組み、固定した製品の製造にとられない柔軟な対応により、さまざまな分野の製造へ挑戦している。

所在地	秋田県秋田市牛島西1-4-10	設立	1991年
電話/FAX	018-837-0811 / 018-837-0812	資本金	2,600万円
URL	<a href="http://www.hokushin-elec.co.jp">http://www.hokushin-elec.co.jp</a>	従業員数	270人
代表者	代表取締役社長 佐藤 宗樹		



### 産学官連携により正確かつスピーディな新製品の開発に取り組む

秋田県産業技術センター内に研究開発部門を設置。産学官連携を重要な活動に位置づけ、県設備(3Dプリンタ、測定機器等)を活用して新製品の開発等に取り組む。国の競争的資金等も活用して、超音波式ガス濃度測定・流量制御ユニットを製品化。「肺活量測、在宅医療機器」に採択され、安全かつ高精度な医療機器市場への参入を果たした。さらに、その超音波技術を用いた流量計を人工呼吸器用に提供するため、サプライチェーン補助金を活用して増産体制を構築した。



開発部門(秋田県産業技術センター)

### フェイスシールドの無償提供等を通じた感染症対策での地域貢献

コロナ禍、小型精密成型技術を活用して製品化したフェイスシールドを、地域のサッカーチーム(J3ブラウブリッツ秋田)やバスケットチーム(秋田ノーザンハピネッツ)、あきた舞妓用にカラー等をアレンジして無償で提供。感染対策と経済の両立に貢献している。また、今後は医療機器分野において、感染症対策のため、ディスプレイ製品がさらに求められることから、生産においては県内企業と生産協力体制を構築し、地域経済への波及効果をもたらすような取組を計画している。



フェイスシールド等の感染防具

### 付加価値の高い医療機器分野で差別化された製品化に取り組む

医療機器製造業許可を取得し、比較的高付加価値・安定的な医療機器分野へ参入。より付加価値のある製品開発に取り組んでいる。たとえば、海外で行った生体適合性試験の実績のある樹脂を使用し、直接肌に触れてもアレルギー反応が出ないような感染防具の開発、流体解析による独自の設計による肺活量計のマウスピースの開発に取り組んでいる。さらに、発展途上国向けに根管治療(虫歯治療)を広めるため、現地のニーズ調査、教材等の製品開発、社内体制の整備、知的財産権の調査などの取組を行っている。



医療機器に搭載される「気体流量計」